



◆調査の概要

調査目的	青森県内のヤングケアラーの実態を明らかにし、支援の方向性や有効な施策の立案に活用する
調査対象者	32,540人 県内の小学校(6年生)、中学校(2年生)、高等学校(2年生)、大学(3年生)の児童生徒
調査方法	学校を通じて依頼文を配布。Webによる回答。(一部書面回答) ※無記名・任意回答
調査時期	令和4年12月16日(金)～令和5年1月16日(月)
有効回答数・有効回答率	19,532人・60.0% (小学生:6,971人・73.5%、中学生:6,584人・67.2%、高校生:5,217人・54.6%、大学生:760人・20.5%)

◆ヤングケアラーの割合 (報告書 P.53参照)

全有効回答者に占めるヤングケアラーの割合(本調査においては、お世話が必要な家族がいる、かつ、お世話をしている人の中に自分を選択した回答者をヤングケアラーとして捉えている)は、以下のとおりであり、少なくとも数ですべての学校種別にいることが確認された。

	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生	合計
本調査	5.9% (408/6,971人)	5.0% (331/6,584人)	3.3% (173/5,217人)	2.5% (19/760人)	4.8% (931/19,532人)
国の先行調査	6.5%	5.7%	4.1%	6.2%	5.7%※

◆ヤングケアラーの分類 (報告書 P.54～参照)

※国の先行調査(P.2～P.4)では、各学校種別のヤングケアラーの割合のみ公表されている。公表資料を踏まえて、青森県として各学校種別の回答者数と割合から、合計の割合を算出した。

一緒にお世話をしている家族や中心にお世話をしている人によって、ヤングケアラーを「孤独ケアラー」「メインケアラー」「サブケアラー」に分類したところ、「サブケアラー」が最も多かった。

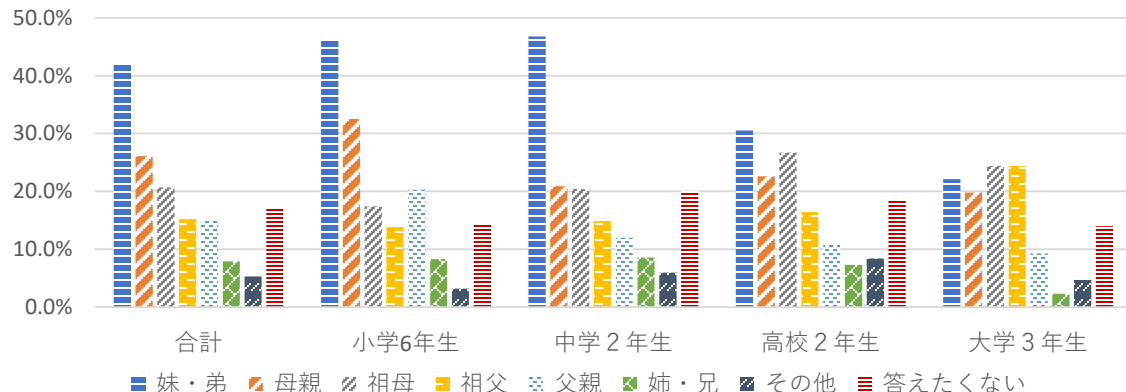
グループ名	説明	ヤングケアラーに占める割合					有効回答者に占める割合(合計)
		小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生	合計	
孤独ケアラー	家族と一緒にではなく、子どもが中心的一人でお世話をしている。	6.9% (28/408人)	4.8% (16/331人)	4.6% (8/173人)	15.9% (3/19人)	5.9% (55/931人)	0.3% (55/19,532人)
メインケアラー	家族と一緒に、子どもが中心的一にお世話をしている。	29.2% (119/408人)	20.8% (69/331人)	22.0% (38/173人)	21.1% (4/19人)	24.7% (230/931人)	1.2% (230/19,532人)
サブケアラー	中心にお世話をしている家族を手伝う。	64.0% (261/408人)	74.3% (246/331人)	73.4% (127/173人)	63.2% (12/19人)	69.4% (646/931人)	3.3% (646/19,532人)

※小数点以下の処理により、合計が100.0%にならない場合がある。複数回答が可能な設問の場合、合計が100.0%を超える場合がある。以下についても同様。



◆お世話が必要な人【複数回答】（報告書 P.49参照）

家庭内にお世話が必要な人がいると回答した人に、お世話が必要な人を聞いたところ、「妹・弟」（41.9%）が最も高く、次いで「母親」（26.1%）、「祖母」（20.7%）、「答えたくない」（17.1%）、「祖父」（15.2%）、「父親」（15.1%）、「姉・兄」（7.9%）、「その他」（5.3%）の順であった。



お世話が必要な人	合計	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生
妹・弟	41.9%	46.2%	46.8%	30.5%	22.1%
母親	26.1%	32.5%	20.9%	22.6%	19.8%
祖母	20.7%	17.4%	20.4%	26.7%	24.4%
祖父	15.2%	13.8%	14.9%	16.4%	24.4%
父親	15.1%	20.3%	12.0%	10.9%	9.3%
姉・兄	7.9%	8.3%	8.6%	7.3%	2.3%
その他	5.3%	3.2%	6.0%	8.4%	4.7%
答えたくない	17.1%	14.5%	20.1%	18.5%	14.0%
	n=1,995	n=839	n=631	n=439	n=86

◆お世話の内容【複数回答】（報告書 P.63～参照）

ヤングケアラーにお世話の内容を聞いたところ、お世話の内容として「家事（食事の準備やそうじ、せんたく）」の回答が多かった。

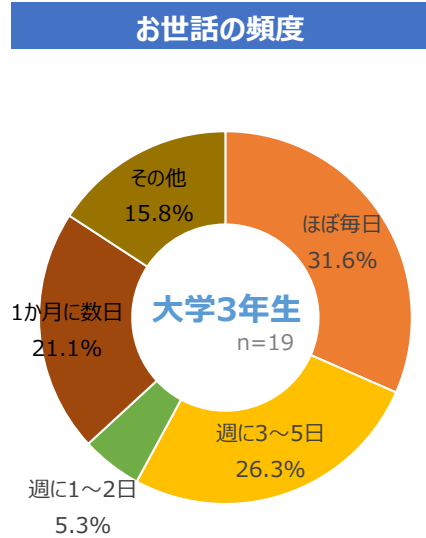
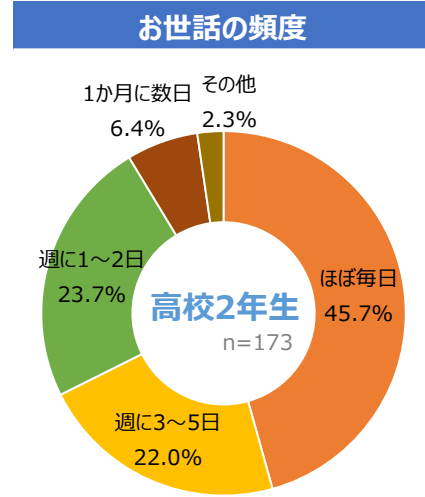
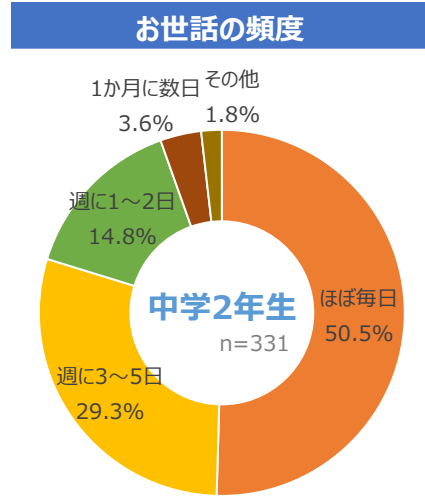
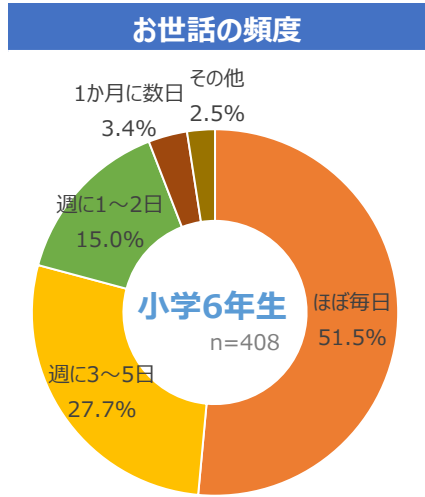
お世話が必要な人	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生
母親	家事（食事の準備やそうじ、せんたく）：71.2%	家事：75.0%	家事：63.2%	通院への付き添い：75.0%
父親	家事：56.0%	家事：73.3%	家事／見守り：66.7%	身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）：66.7%
祖母	家事／話を聞く：54.3%	家事：82.5%	家事：78.8%	家事：75.0%
祖父	話を聞く：55.2%	家事：71.0%	家事：77.8%	家事／身体的な介護／外出の付き添い：66.7%
姉・兄	家事：62.5%	家事：73.7%	家事：88.9%	外出の付き添い／通院への付き添い／感情面のサポート／見守り／薬の管理：100.0%
妹・弟	見守り：69.0%	見守り：69.6%	家事：70.3%	家事：75.0%

※お世話が必要な人別に、子どもがお世話をしている内容上位1つを掲載。



◆お世話の頻度（報告書 P.74～参照）

ヤングケアラーのお世話の頻度は、すべての学校種別で「**ほぼ毎日**」の割合が最も高く、また、週に3日以上お世話をしているヤングケアラーが6割以上であった。



◆お世話の時間（報告書 P.76～参照）

ヤングケアラーのお世話の時間は、すべての学校種別で「**1時間より少ない**」が最も高く、次いで「1時間」であった。1日に6時間以上お世話をしているヤングケアラーが4～6%程度存在していた。

小学6年生

お世話の時間	
1時間より少ない	29.2%
1時間	23.3%
2時間	19.6%
3時間	12.3%
4時間	6.1%
5時間	3.4%
6時間以上	6.1%

n=408

中学2年生

お世話の時間	
1時間より少ない	29.6%
1時間	26.6%
2時間	18.4%
3時間	12.4%
4時間	5.4%
5時間	2.7%
6時間以上	4.8%

n=331

高校2年生

お世話の時間	
1時間より少ない	38.2%
1時間	28.9%
2時間	13.3%
3時間	9.2%
4時間	3.5%
5時間	2.9%
6時間以上	4.0%

n=173

大学3年生

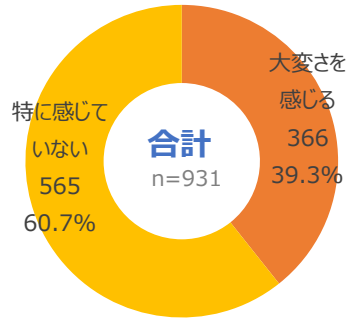
お世話の時間	
1時間より少ない	47.4%
1時間	21.1%
2時間	10.5%
3時間	5.3%
4時間	10.5%
5時間	0.0%
6時間以上	5.3%

n=19



◆お世話の大変さ【複数回答】（報告書 P.78～参照）

ヤングケアラーにお世話の大変さを聞いたところ、約4割が「大変さを感じる」と回答（「身体的に大変」、「精神的に大変」、「時間的余裕がない」のうち1つ以上を選択）し、約6割は「特に大変さは感じていない」と回答した。グループ別にみると、孤独ケアラーとメインケアラーの合計では、身体的・精神的・時間的のすべての面において、サブケアラーよりも大変さを感じる割合が高かった。



お世話の大変さ	総計		孤独ケアラー		メインケアラー		孤独ケアラー＋メインケアラー合計		サブケアラー	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
身体的に大変	144	15.5%	17	30.9%	52	22.6%	69	24.2%	75	11.6%
精神的に大変	202	21.7%	14	25.5%	64	27.8%	78	27.4%	124	19.2%
時間的余裕がない	146	15.7%	8	14.5%	48	20.9%	56	19.6%	90	13.9%
特に大変さは感じていない	565	60.7%	25	45.5%	111	48.3%	136	47.7%	429	66.4%
	n=931		n=55		n=230		n=285		n=646	

◆お世話に伴う困りごと（報告書 P.83～参照）

ヤングケアラーにお世話に伴う困りごとを聞いたところ、小学6年生、中学2年生、高校2年生では、4～6割の回答者が「困っていることはない」と回答した。

困りごとの内容では、すべての学校種別で、「ストレスを感じる」が1位であった。困りごとの2～5位の内容で、すべての学校種別に共通するものは以下のとおりであった。

- ・自分の時間が取れない
- ・宿題（大学3年生は課題・予習復習）や勉強をする時間がない
- ・睡眠が十分に取れない（大学3年生を除く）

困りごと	小学6年生		中学2年生		高校2年生		大学3年生	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ない	199	48.8%	152	45.9%	100	57.8%	6	31.6%
ある	209	51.2%	179	54.1%	73	42.2%	13	68.4%
	n=408		n=331		n=173		n=19	

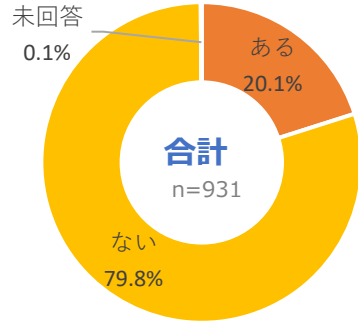
順位	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生
1位	ストレスを感じる	ストレスを感じる	ストレスを感じる	ストレスを感じる
2位	自分の時間がとれない	成績が落ちた	成績が落ちた	友人と遊ぶことができなかった
3位	宿題など勉強をする時間がない	自分の時間がとれない	自分の時間がとれない	課題・予習復習をする時間がとれない
4位	眠る時間がたりない	睡眠が十分に取れない	睡眠が十分に取れない	孤独を感じる
5位	授業に集中できない	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	自分の時間がとれなかった

※困っている順に3位まで回答されたものを、1位3ポイント、2位2ポイント、3位1ポイントとして集計し、ポイントの高い順に1位から5位としたもの。



◆相談経験（報告書 P.93～参照）

ヤングケアラーにお世話について相談した経験を聞いたところ、約 8 割が「相談経験がない」と回答した。また、相談経験がある者の相談相手は、すべての学校種別で「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が 7～8 割と最も高かった。

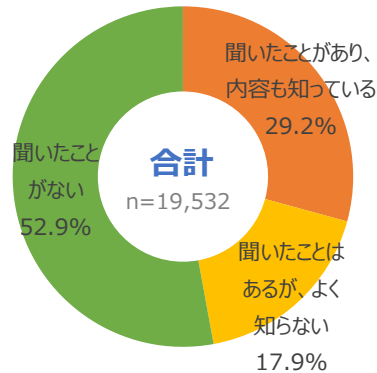


※相談経験が「ある」と答えた回答者の相談相手（上位3つ）

順位	小学6年生	%	中学2年生	%	高校2年生	%	大学3年生	%
1位	家族(お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい)	81.3%	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	81.5%	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	67.6%	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	75.0%
2位	友だち、先輩いや後はい、交際相手	32.5%	友人、先輩や後輩、交際相手	35.4%	友人、先輩や後輩、交際相手	35.3%	友人 交際相手、配偶者	25.0% 25.0%
3位	しんせき(おじ、おばなど) 学校の先生(保健室の先生以外)	12.5% 12.5%	学校の先生(保健室の先生以外)	15.4%	親戚(おじ、おばなど) 保健室の先生	11.8% 11.8%		
	n=80		n=65		n=34		n=8	

◆ヤングケアラーの認知度（報告書 P.116～参照）

全有効回答者に「ヤングケアラー」という言葉の認知度を聞いたところ、「聞いたことがない」52.9%、「聞いたことがあり、内容も知っている」が29.2%、「聞いたことがあるが、よく知らない」が17.9%であった。
回答者の年齢が上がるにつれて、「聞いたことがあり、内容も知っている」という割合が高くなっていった。



認知度	合計	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生
聞いたことがあり、内容も知っている	29.2%	19.9%	28.4%	38.0%	62.5%
聞いたことはあるが、よく知らない	17.9%	19.2%	19.0%	15.6%	12.4%
聞いたことがない	52.9%	60.9%	52.6%	46.5%	25.1%
	n = 19,532	n = 6,971	n = 6,584	n = 5,217	n = 760



◆グループ毎の支援の方向性（報告書 P.128～参照）

孤独ケアラーやメインケアラーについては、教職員や子どもの周りにいる大人・関連団体に対して、国の先行調査及び本調査の結果をもとにヤングケアラーに関する理解を深める研修会等を行うことにより早期発見につなげるとともに、子どもが担っているお世話を代わりに担う既存の施策に確実につなげるなど、ヤングケアラーのお世話の頻度・時間を軽減するための支援策を検討する。サブケアラーについては、多くのサブケアラーに対して、同時に負担が軽減されるような支援方法を検討するとともに、お世話の頻度や時間を減らし、あわせて本人の困りごとを相談できる体制を整える。

◆ヤングケアラー全体の支援の方向性（報告書 P.139～参照）

県内に居住する小学6年生、中学2年生、高校2年生、大学3年生に調査を行ったところ、回答者のなかにヤングケアラーが少ない数でいることが確認された。調査結果から、支援の方向性として、①子どもがどのようなことでも気軽に相談しやすい環境をつくること、②積極的に大人がアプローチする仕組みを整えること、③既存の様々な施策に子どもや家庭をつなげていくことが必要であり、市町村や学校、既存の団体、様々な取組等（福祉団体、医療関係団体、福祉サービス事業者、児童館、学童保育、子ども食堂など）と連携し、できる限り速やかに支援体制を構築することが重要である。

【青森県ヤングケアラー実態調査】

本調査は、令和4年度ヤングケアラー支援体制構築事業により、青森県が材株式会社に委託し、調査を実施・報告書を作成したものである。

- 青森県健康福祉部こどもみらい課 子育て支援グループ
〒030-8570 青森県青森市長島1丁目1-1
- 材株式会社
〒033-0041 青森県三沢市大町2丁目4-7

【報告書及び概要に関する留意事項】

- ・小数点第2位を四捨五入した値を表記しているため、合計が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であることを示しているため、合計が100.0%を超える場合がある。
- ・調査結果について、原則として選択肢の回答数が10未満のものについては、図示することとどめ、本文中で言及しない。
- ・小学6年生から大学3年生までの回答を合計した図表等やその分析については、学校種別により選択肢の文言が異なる場合があることから、中学2年生、高校2年生の選択肢の文言を使用している。